



令和6年度

水稻の生育概況 vol.2



埼玉県マスコット
「コバトン」

(令和6年7月16日現在)
埼玉県農業技術研究センター

要 約

◎気象概況：6月は平年に比べ平均気温は $+1.5^{\circ}\text{C}$ とかなり高く、降水量は平年並日照時間は136%と多かった。

梅雨入りは6月21日頃と平年より14日遅かった。

◎生育状況：高温の影響により分けつの発生は旺盛である。また、早期・早植地域では平年に比べ生育は進み、出穂が早まると見込まれる。

◎今後取るべき技術対策

- ・水 管 理：早植栽培で中干しが未実施のほ場は直ちに実施する。普通期栽培は移植後30日頃を目安に中干しを実施する。
- ・穂 肥：平年に比べ幼穂の分化が早まると予想されるため、早めに葉色等の生育診断を行い、診断結果に基づく適切な穂肥を実施する。
- ・病虫害防除：斑点米カメムシ類の発生量が多いことから、ほ場をよく観察し、必要に応じて薬剤防除を実施する。特に早期・早植地域ではイネカメムシの防除を心がける。

1 気象の概況

6月の平均気温は第1半旬が低かったが、月平均では $+1.5^{\circ}\text{C}$ とかなり高かった。降水量は、中旬までは半旬別に変動が大きかったが、月合計では平年比102%と平年並であった。日照時間は梅雨入りが遅かったことから第4半旬まで平年を上回り、月合計では平年比136%と多かった。

気象庁の発表によると、関東甲信の梅雨入りは6月21日頃であり、平年より14日遅かった。

2 生育の概況

(1) センター内生育相

ア 早期栽培（5月1日植 コシヒカリ）

高温多照により生育は進み、移植後60日調査では、草丈は平年比107%、莖数は平年比122%と多く、葉位の進展は平年より0.9枚早い。

幼穂長は2.7mm（平年値：1.0mm）、稈長6.3cm（平年値：2.8cm）と平年より伸長が早く、出穂期は平年（7月25日）より早まると予想される。

イ 早植栽培（5月21日植 彩のかがやき）

高温多照により、移植後20日以降の生育は平年を上回って推移し、移植

後 40 日調査では、草丈は平年比 109%、莖数は平年比 122%、葉位の進展は平年より 0.7 枚早く、旺盛な生育となっている。

ウ 普通期栽培（6月 25 日植 彩のきずな）

移植時の苗の草丈、葉位、充実度はおおむね平年並であった。活着は良好である。

（2）県内全般

早期・早植栽培とも平年に比べ草丈・莖数は上回っており、生育は旺盛で過繁茂気味となっている。また早期栽培では、幼穂の分化が平年に比べ 3～5 日程度早まっており、早植栽培も生育が早まっている。

普通期栽培では、麦類の収穫が好天に恵まれて順調であったことから田植作業も順調に推移し、おおむね平年並の 6 月末に終了した。苗の活着は良好で、初期生育も順調である。

3 今後の生育予測

（1）気象予測

気象庁が 7 月 11 日に発表した関東甲信地方の 1 か月予報では、期間の初めは曇りや雨の日が多いが、その後は晴れの日が多くなり、気温はかなり高くなる見込みである。降水量、日照時間はほぼ平年並の見込みである。

また、6 月 25 日に発表した 3 か月予報でも、7～9 月は暖かい空気に覆われやすいため、気温は高い見込みである。

（2）生育予測

ア 早期栽培

今後も気温が高いと予報されていることから、生育は平年より早まり、農業技術研究センター作成の農作物発育予測プログラムでは出穂期が 3～5 日程度早まると予測している。

イ 早植栽培

早期栽培と同様に、生育は平年より早まり、出穂期も数日早まると予想される。また、分けつの発生が旺盛で過繁茂気味となることが予想される。

ウ 普通期栽培

気温が高いと予報されていることから、生育は平年に比べ早まると予想される。また、分けつの発生が旺盛で過繁茂気味となることが予想される。

4 今後取るべき技術対策

（1）早期、早植栽培

ア 水管理

早期栽培では出穂前後 7 日間は深水管理とする。その後は根の活力を維持するため間断かん水を行う。

早植栽培で中干しを実施していないほ場では、直ちに実施し無効莖の発生を抑える。中干し後～幼穂形成期までは根の活力を維持するため間断かん水を行う。

イ 穂肥

高温障害の軽減には葉色診断に基づく追肥（穂肥）が最も重要であるため、ほ場をよく観察し、早め早めの対策を講じる。

今後も気温が高く推移すると予報されていることから、平年に比べ出穂期が早まると予想される。このため、幼穂長、葉色等の観察結果に基づき適期を逃さないよう穂肥を施用する。

早植栽培の「彩のかがやき」では、出穂前23～22日頃（幼穂長1～2mmに達した時期）に葉色が葉色板で4以下の場合は窒素成分で3 kg/10aを限度に穂肥を施用する。葉色が4以上の場合は低下するまで時期を遅らせ、4以下に低下してきたら窒素成分を2 kg/10a程度に減らして施用する。

また、適期に穂肥を施用した場合でも出穂前10日頃に葉色を確認し、葉色が4以下の場合は窒素成分で2 kg/10a程度の穂肥を追加する。

「コシヒカリ」等で基肥一発肥料を施用している場合でも、穂肥時期に葉色が薄い場合は追肥を検討する。

ウ 病害虫防除

本年は、イネカメムシの発生が多く、予察灯による7月3日までの誘殺数が122頭と、昨年（9月まで）の総誘殺数114頭を既に超えている。更に昨年、発生が多かった県東部・東北部地域のほか、本年は県西部や北部地域でも発生が確認されている。多発すると収量・品質に甚大な被害を及ぼすことから、出穂期を迎える水田では、ほ場をよく観察し、必要に応じて薬剤による防除を徹底する。

斑点米カメムシ類情報：[令和6年度注意報第5号 \(saitama.lg.jp\)](http://saitama.lg.jp)

エ 雑草防除

高温の影響から後発の雑草が散見される。雑草が多発した場合は、草種に合わせた除草剤を適期に散布するとともに、クサネムなどの大型種子の雑草は玄米調製時に選別できないため収穫前に取り除く。

また、特定外来生物の「ナガエツルノゲイトウ」が県内で発生している。水田内や畦畔に定着すると防除が困難となるため、ほ場の水口周辺を重点的に観察し、早期発見と早期防除を心掛ける。

ナガエツルノゲイトウ情報：[ナガエツルノゲイトウ \(saitama.lg.jp\)](http://saitama.lg.jp)

(2) 普通期栽培

ア 水管理

移植後30日頃を目安に中干しを実施するが、高温の影響により分けつの発生が進むと予想されることから、ほ場を観察し有効茎を確保したら速やかに小ひびが入る程度に中干しを実施する。中干し後は間断かん水を励行し根の活力維持に努める。

イ 穂肥

「彩のかがやき」では、出穂前25日頃（幼穂長0.5～1 mm）に葉色が葉色板で4以下の場合は窒素成分で3 kg/10aを限度に穂肥を施用する。

葉色が4以上の場合は低下するまで施用時期を遅らせ、4以下に低下してきたら窒素成分を2kg/10a程度に減らして施用する。

また、適期に穂肥を施用した場合でも出穂前10日頃に葉色を確認し、葉色が4以下の場合は窒素成分で2kg/10a程度穂肥を追加する。

ウ 病虫害防除

これまで普通期栽培では、イネカメムシ等の斑点米カメムシ類の被害は軽微であったが、本年は暖冬による越冬個体の増加に伴い、発生地域と発生量が急速に拡大し、被害の発生が懸念される。出穂前から水田及び周辺のヒエなどのイネ科雑草を観察して、発生が確認されたら、前出の対策チラシを参考に防除を検討する。

また、イネ縞葉枯病等を媒介するヒメトビウンカの6月の生息密度が過去10年で最も高くなっている。「キヌヒカリ」等の罹病性品種では必要に応じて薬剤による防除を検討する。

ヒメトビウンカ情報：[info20240626fu.pdf \(saitama.lg.jp\)](http://info20240626fu.pdf(saitama.lg.jp))

エ 雑草防除

雑草が多発した場合は、草種・葉齢に合わせた除草剤（中期、後期剤）の適期散布を行う。用水量が少なく、湛水が維持できない場合は、中干し時期に合わせて落水茎葉処理タイプの除草剤を使用する。

解析・考察に用いた具体的数字

1 気象表（熊谷気象台日別測定値から集計）

6月											
半旬	平均気温(°C)		最高気温(°C)		最低気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(hr)		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
1	20.0	21.0	25.8	26.4	15.7	16.5	37.0	21.3	38.2	29.1	
2	22.5	21.4	27.5	26.5	18.5	17.2	10.5	26.0	28.1	24.9	
3	25.6	21.9	32.3	26.7	20.5	18.0	0.0	29.2	48.2	21.6	
4	24.4	22.5	30.4	27.1	19.5	18.8	52.0	28.9	38.3	19.9	
5	24.5	23.1	29.5	27.5	19.8	19.5	27.0	26.0	13.5	18.6	
6	25.4	23.9	29.2	28.3	22.7	20.3	26.0	24.8	16.2	18.7	
平均	23.8	22.3	29.1	27.1	19.5	18.3	合計 152.5	149.5	182.5	133.9	

注) 半旬数値は熊谷地方気象台日別測定値から集計。ただし、月平均・合計は気象台値。

平年値は1991～2020年の気象台値。

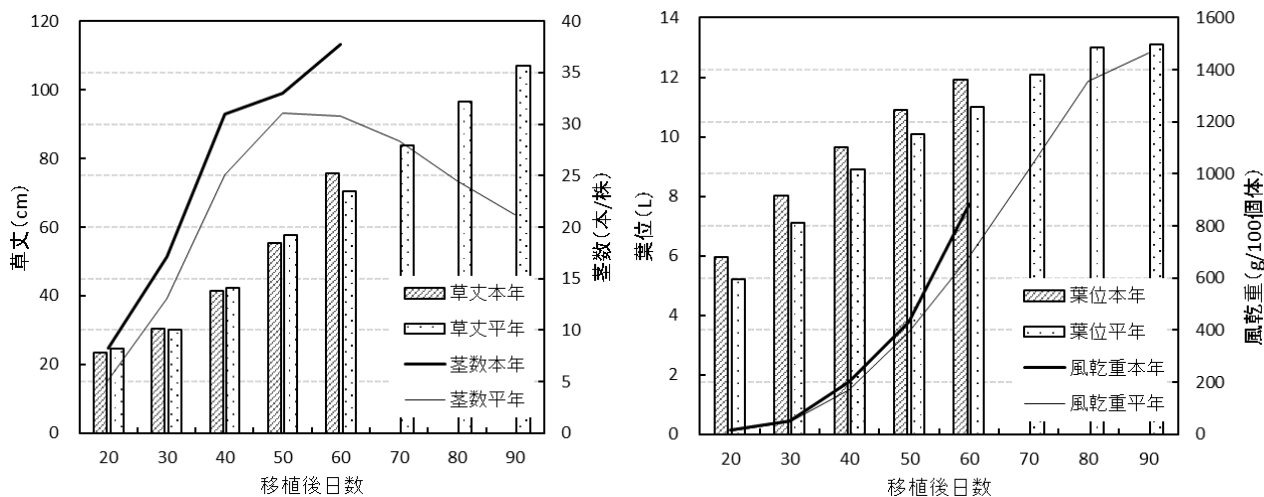
2 早期栽培（5月1日植 コシヒカリ）

(1) 本田生育

移植後 日数	草丈(cm)			茎数(本/株)			葉位(L)			風乾重(g/100本)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比
40	41.3	42.2	98	31.0	25.1	124	9.7	8.9	0.7	201.2	170.2	118
50	55.4	57.8	96	33.0	31.1	106	10.9	10.1	0.8	430.8	393.1	110
60	75.6	70.4	107	37.7	30.8	122	11.9	11.0	0.9	885.1	683.8	129

注) 平年値は平成11年～令和5年の平均(H22を除く)。 平年比は%

(2) 生育経過



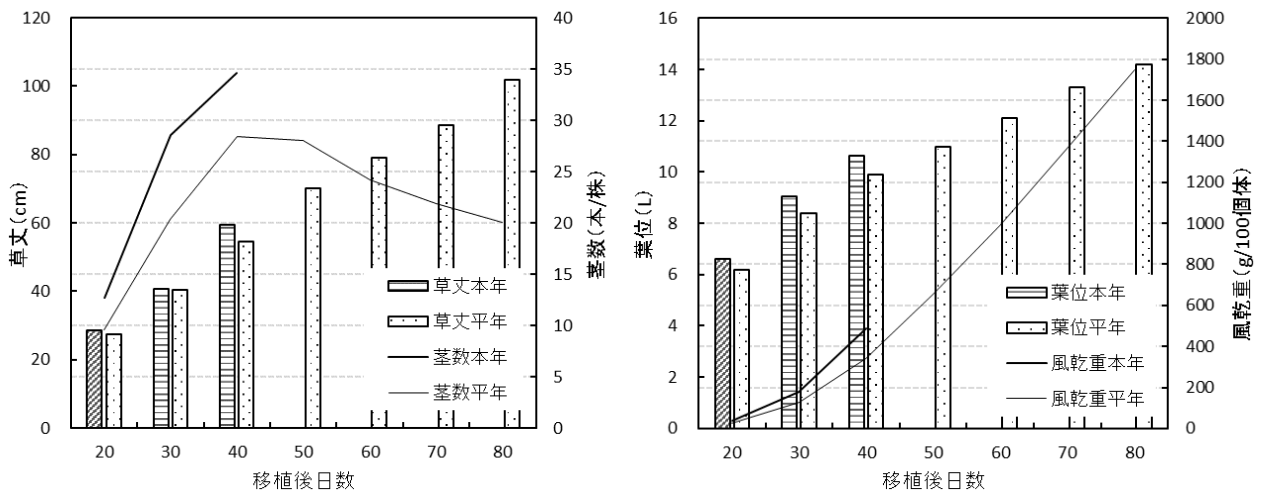
3 早植栽培（5月21日植 彩のかがやき）

(1) 本田生育

移植後 日数	草丈(cm)			茎数(本/株)			葉位(L)			風乾重(g/100本)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比
20	28.7	27.3	105	12.7	9.6	132	6.6	6.2	0.4	36.1	26.0	139
30	40.8	40.3	101	28.6	20.3	141	9.1	8.4	0.7	178.6	129.7	138
40	59.5	54.4	109	34.6	28.4	122	10.6	9.9	0.7	486.4	340.3	143

注) 平年値は平成12年～令和5年の平均。 平年比は%

(2) 生育経過

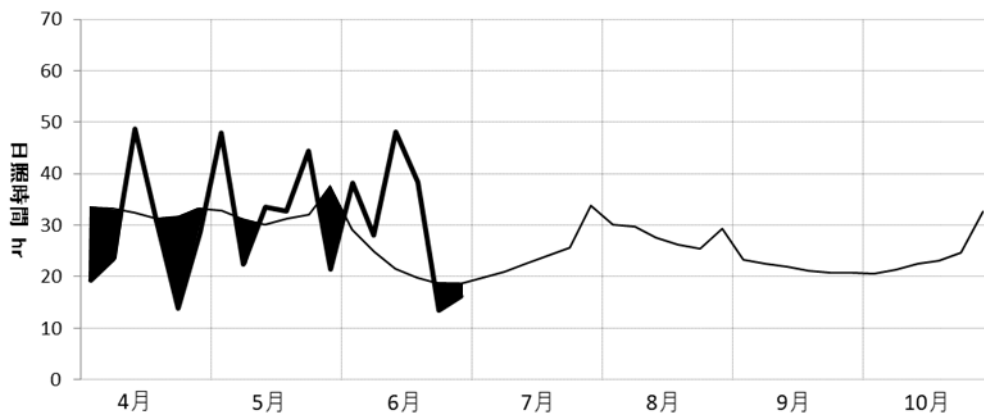
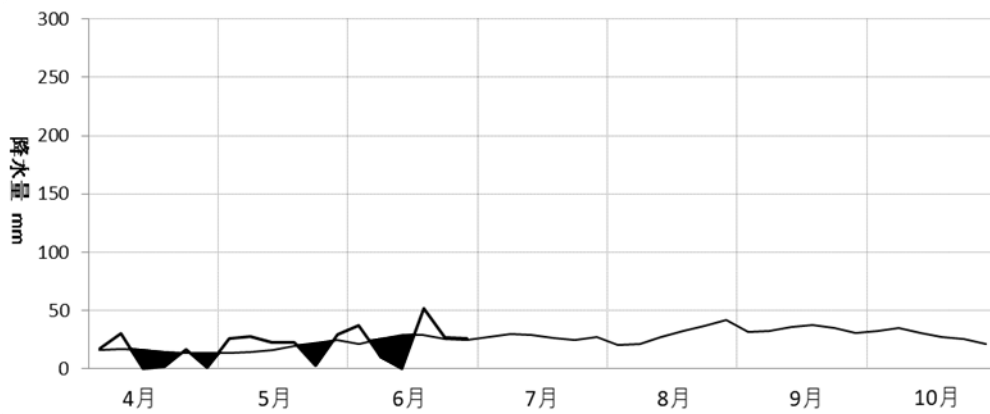
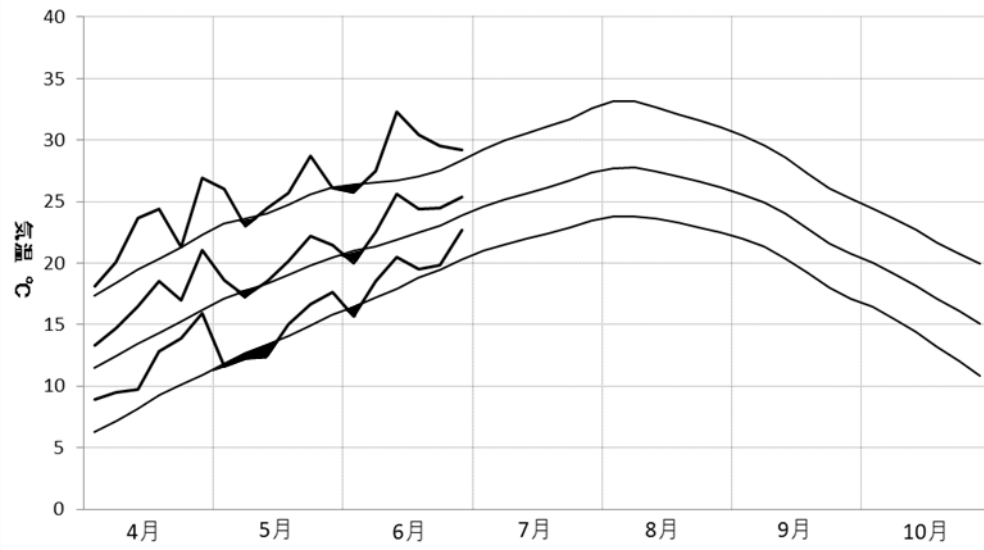


3 普通期栽培 (6月26日植 彩のきずな)

(1) 苗質

草丈(cm)			葉位(L)			風乾重(g/100本)			充実度(mg/cm)		
本年	平年	平年比	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差
16.8	16.5	102	3.5	3.5	0.0	2.7	2.8	96	1.61	1.70	-0.1

注) 平年値は平成27年～令和5年の平均。 平年比は%、充実度は風乾重/草丈。



令和6年夏作期間気象図

(熊谷気象台日別測定値から作成)